

調査会 NEWS 465](19.2.1)

「しおかぜ」について

現在早朝と深夜に 30 分ずつ、1 日 1 時間流している「しおかぜ」の放送のうち、早朝 5:30 ~ 6:00 の放送を本日(2 月 1 日)から 1 週間休止いたします。

早朝の放送は現在非常に受信状況が悪く、送信を依頼している英国 VT 社との間で周波数、時間変更等のやり取りを続けて参りました。しかし変更は難しく、たくさんの方々からお問い合わせをいただきました。貴重なカンパで送信していることもあり、放置できないと考え、先月下旬、一端早朝の放送の停止を決め、VT 社側に連絡、本日 1 日放送分から中止することで了解を得ました。

その時点では効果的な放送時間と周波数、送信方法などを再考し、現在調整が進められている日本国内からの送信の進展を見ながら元の 1 時間放送に戻す予定だったのですが、その後の検討で VT 社経由の放送での新たな時間、周波数の取得は難しく、日本国内からの送信は開始できるとしてもしばらく先であるため、いったん元の周波数及び時間の放送を復活させることにしました。当面聞きにくい状況は変わらないわけですが、電波環境から言えば現在の周波数帯で北朝鮮及び周辺地域において受信状態の悪いのは 12 月から 1 月がピークであり、その後は次第に良くなるはずなので、それに期待をかけて再開します。

現在のところ 2 月 8 日分から 1 時間に戻す予定です。周波数は前と同じ 9645Khz、時間も同じ 5:30 ~ 6:00 です。夜の放送は朝の休止中も含め継続して流します。

また、前述のように VT 社経由と並行して国内からの送信も調整が行われています。まだ発表できる状況ではありませんが、決定しましたらお知らせします。色々試行錯誤でご迷惑をおかけしますが、ともかく、少しでも効率的に、より多くの情報を北朝鮮に、拉致被害者に届けたいという目的に違わないよう努力して参りますのでご理解賜りますようお願い申し上げます。

調査会 NEWS 466](19.2.3)
「諸君！」の拙稿について

荒木和博

1日発売の「諸君！」3月号に掲載されている論文「蓮池薫『工作員』説を徹底検証」(連載している月報「北朝鮮問題」の特別版)について、色々ご評価をいただいています。これについては明後日(5日月曜)発売の「週刊現代」にも寄稿していますので、ご関心のある方はご一読下さい。

拉致問題にハッピーエンドはありません。今帰国していない拉致被害者が帰ってきて個別に「よかった」ということはあっても、拉致の全貌が分かってくれば、おそらく「知らない方がよかった」と思うことが次から次へと出てくると思います。おそらく数十年の間、この国の政権は、それが怖かったから拉致問題を隠蔽してきたのでしょう。しかし、隠してきたことによって問題はどんどん膨らんでいきました。一種の「キャリアオーバー」です。

私たちの時代にまたそれをやってしまったら、次の世代はさらに大きな荷物を背負わなければなりません。僭越ですが、ジャーナリストであれば表面的な動きを追ったり、官製の情報操作に振り回されるのではなく、問題の本質がどこにあるのか、ぜひ突き止めていただきたいと思います。また、政治家であれ、官僚であれ、民間人であれ、拉致問題に何らかの関わりがあるのであれば、この時代を生きるものとしての責任を追うべきでしょう。

今回の山拓訪朝などにみられる小手先での解決を目指す動きは、この逆で、本質をさらに隠蔽し、次の世代につけ回しをするものです。この動きには米国も中国も好意的に対応していると言われていています。韓国盧武鉉政権も日本が拉致問題で踏ん張ることは快く思っていない。つまり現状は、周辺から「適当に矛を収めなさい」という圧力があり、国内でもその動きがあるということで、一つの正念場です。

蓮池薫氏が本当に日本に戻っていたのか、今の時点では絶対とは言えません。しかし、可能性は十分に存在しますし、彼でなかったとしても、政府認定かどうかは別として、拉致被害者の何人かが日本に戻っていたことはほぼ間違いないと思います。

昨年、横田めぐみさんの夫であった金英男さんがご家族と対面し、その後記者会見で北朝鮮の書いたシナリオ通りに話をしたとき、彼に怒りを感じた方もいると思います。しかし、怒るべきは金正日体制に対してです。高校生を突然家族から引き離し、その被害者や家族の人生をめちゃくちゃにしておいて、さらに被害者や家族を利用してプロパガンダを行おうとする体制にこそ憎しみを持つべきでしょう。

何事も問題を矮小化していた方が楽です。今柳沢厚労相の発言をめぐって国会では大騒ぎになっていますが、ああいう、敢えて言うならどうでもいいことで騒いでいた方が野党

共闘もやりやすいでしょう。しかし、貴重な国費を使う国会でやるべきことは山ほどあります。全部はとてできないのですから、優先順位をつけて行わなければなりません。

いうまでもなく国会が最も優先的に取り組まなければならないのは国家の基本に関わる問題です。拉致問題について言えば、隠し続けてきた与党はもちろん自らは何も言いませんし、野党もかつて隠す方の側にいたり、場合によっては北朝鮮に協力していたりで、それぞれ下手をすれば藪蛇になる、したがって文句をつけやすいことを探して時間を費やす。これでは自らの責任を放棄したも同じだと思います。

今回の「諸君！」「週刊現代」に書いた問題については今後も発言していくつもりです。ご批判も含め、ぜひご意見を寄せていただきますようお願いします。

調査会 NEWS 467](19.2.5)

古川了子さんの拉致認定を求める行政訴訟について

本日(2月5日)古川さんの訴訟で和解期日(この場合の「期日」というのは法律用語で、普通使われる「振込期日」などと若干意味がことなります)が行われました。これについて原告側主任弁護士である川人博・法律家の会幹事のコメントをお伝えします。

(川人弁護士コメント)

本日、古川さん訴訟の和解協議期日があり、原告被告双方が意見を述べた末、続行となり、次回は、3月12日(月)午後3時(非公開)となった。

原告側としては、古川さんをはじめ、いまだ政府が認定していない被害者の救出のため今後とも力を尽くす所存である。

調査会 NEWS 468](19.2.12)

報道関係各位 定例記者会見のお知らせ

今月の定例記者会見は下記の通り行います。各位にはご多忙中恐縮ですが対応方よろしく
お願い申し上げます。

日時 2月15日(木) 14:00 ~

場所 調査会事務所 3F

内容 追って発表します

調査会 NEWS 469](19.2.14)

ポスター第8版が完成

新しい調査会のポスターが完成しました。

未帰還の拉致被害者を含む特定失踪者(公開者)277名の氏名・顔写真を掲載しています。

1枚100円(送料込み)で販売しています。ご活用下さい。

記者会見について

明日15日木曜14:00からの定例記者会見は次のような内容にて行います。

- 1、1000番台リスト発表(1名)
- 2、「しおかぜ」の今後について
- 3、タイにおける脱北者調査について
- 4、バルーンプロジェクト(風船でピラを送る活動)について
- 5、その他

調査会 NEWS 470](19.2.15)

以下は本日の記者会見での発表のうち、1000 番台リストの追加及び 6 者協議に関し発表した文書です。

1000 番台リスト（第 11 次）

安達俊之さんをゼロ番台リスト（拉致の可能性が排除できない失踪者）から 1000 番台リスト（拉致の可能性が高い失踪者）に変更しました。

安達俊之（あだち・としゆき）

昭和 38（1963）年 1 月 16 日生まれ

昭和 56（1981）年 6 月 20 日 石川県鶴来町（現在白山市）で失踪。同時に失踪した同僚の女性 A さんと共に拉致されたと推定される（A さんは非公開で特定失踪者リストに登録）。

失踪当時の年齢 18 歳

失踪当時の身分 ホテル従業員

失踪当時の住所 石川県鶴来町（現在白山市）

失踪の状況

- ・当日朝海水パンツを買いたいと言った。給料日前だったのでお母さんが 5000 円小遣いをあげる。歯医者に行くお母さんを送りがてら運動具店 2 軒を車で回るが朝で開いていないので国際ホテルで買う と言ってお母さんを鶴来の歯科に降ろして国際ホテルに出勤した。
- ・外出の時の格好は、白の T シャツ、G パン、サマーサンダルであり、車の後部座席に黒のシャツがあった。
- ・午後 6 時前、友人 B 氏宅を訪問したが、B 氏は約束の時間であった午後 6 時までに帰宅するつもりで外出していたので会っていない。家人が対応した。このとき安達さんは女性と一緒にいた。
- ・午後 7 時から 7 時 30 分頃の間、友人 C 氏の運転する車が白山町交差点で、助手席に女性を乗せて白山町西交差点方向から進行してくる俊之さんの車とすれ違ったが、それが最後の目撃情報である。C 氏によれば「外は薄暗かった。女性が乗っていたのはわかったが顔は憶えていない。安達俊之さんは笑っていた。以前、電話で話していた時に、女友達とドライブをしている」と話している。以上の B 氏、C 氏証言からは安達さんの車に同乗していた女性が A さんであると特定できていないが、状況からすればほぼ間違いないと思われる。
- ・安達さんの車（日産スカイライン）は見つかっていない。

- ・当日は帰ってこなかったが、これまでも 2 ～ 3 日黙って 家を留守にすることがあったので、両親は特段、気にも止めなかった。22 日か 23 日に勤務先の国際ホテルから無断欠勤していると連絡があり、急いでかけつけた。24 日か 25 日に鶴来警察署へ届けた。
- ・6 月 28 日 18:00 頃電話があり、父が出ると「俊之捕まっているよ」とたどたどしい少女のような声で話して切れた。10 分後に再度電話があり、母親がでると無言で切れた。電話はその後かかっていない。

< 1000 番台リストに入れた理由 >

アベックの拉致・失踪の集中している時期であり（マッピングリスト 5 「アベック・夫婦の失踪」参照）、それを含めて総合的な状況から判断した。

< 今後の対応 >

刑事告発を石川県警に行う方向で法律家の会と協議中

< その他参考情報 >

11 月 4 日、白山市役所鶴来支所（旧鶴来町役場）に匿名の女性から電話があり、当直の職員がうけた。内容は次の通り。匿名情報で未確認のためあくまで参考情報である。

「今まで誰にも言わなかったが、25 ～ 6 年前の 5 月か 6 月の出来事。小松市の安宅海岸で。男女がゴムボートを漕いでいた。ゴムボートの先、100 メートルの所に漁船がいた。安達さんかはわからないが、気になって連絡した」

6 者協議の合意に関する発表文書

本日発表した以下の文書内容は今回の 6 者協議の合意に抗議し、平成 18 年度補正予算及び 19 年度予算案に計上されている「しおかぜ」に対する事実上の支援を返上するというものです。これまで政府による支援に関し努力を続けてくださった皆様には誠に申し訳ないのですが、この位の覚悟をしたということをアピールしない限り、この合意がそのまま受け入れられ、拉致問題が棚上げにされていく可能性が極めて大きいものとの危機感を持っての判断です。

今回の 6 者協議に関し佐々江外務省アジア大洋州局長以下、交渉担当者の皆様のご努力は評価に値するものだと思います。しかし、この合意に加わったことは現場の問題ではなく、政治の問題です。戦略のミスは戦術で補うことはできません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

これから私たちをとりまく環境も様々な意味で厳しくなるとは思いますが、このピンチこそが最終的な目標達成への決戦と捉え、全力を尽くします。ご支援賜りますようお願い申

上げます。

(発表文)

平成 19 年 2 月 15 日

6 者協議の合意について

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

今回の 6 者協議の合意は、拉致問題の解決をめざす者として、また、帰国者や日本人家族、そして他国の拉致被害者や北朝鮮一般国民の人権を守ろうとする者として、受け入れられるものではない。もちろん、長期的な意味でのわが国の国益にとっても、東アジアの平和のためにもマイナスである。

今、拉致をはじめとする北朝鮮問題は重大な岐路にあると言っても過言ではない。正面からこれに取り組んで解決をめざすのか、先送りして後により大きなツケを回すのか、政府も、国民も覚悟をすべきときである。以上のような状況から、私たちとしても 6 者協議及び政府の対応の意味を明らかにし、私たちなりの覚悟を表明するため、平成 18 年度補正予算及び 19 年度予算から支出される予定の「しおかぜ」に対する事実上の政府支援を受けないことにした。

今回の 6 者協議合意は、単なる欺瞞に過ぎない。金正日体制が維持される限り北朝鮮が核開発を放棄する可能性はゼロであり、支援によって金正日独裁体制の延命に手を貸す以外の結果は得られない。また、現時点で政府は拉致問題の進展なくして援助は行わないとしているが、今後北朝鮮側から「再調査する」などの、守られるはずもない口約束を理由に援助に踏み切ることが憂慮される。もちろん他の 4 国は一刻も早く日本に援助させるよう求めてくるだろう。

私たちとしては 18 年度補正予算、19 年度予算あわせて 500 万程度と推測される日本政府の支援は正直なところ喉から手が出るほど欲しい金額である。しかし、それ以上に、今回の合意に日本が加わったことは極めて重大な問題であり、これを看過することはできない。そして、その重要性を伝えるためには身を切って警鐘を鳴らすしかない考える。

なお、政府支援と別に、KDDI が所有し、現在 NHK が独占的に使用している八俣送信所（茨城県古河市）を使った国内からの「しおかぜ」送信について調整が行われている。これは政府の予算を使うものではないので実現に向けて調整を続ける。現状では総務省、KDDI とともに担当者には積極的に取り組んでいただいております、使用権を持つ NHK の対応が最大のネックになっている。この問題が解決されるかどうかによって実現の可否が決定すると思われる。

何度も訴えていることだが、拉致問題の完全解決は北朝鮮の体制転換なしにはあり得な

い。そして、米国も中国も韓国もロシアも妥協による問題先送りを希望している以上、日本は孤立しても原則的姿勢を貫かなければならない。ことは交渉担当者レベルではなく、政治の決断の問題である。関係各位が私たちの覚悟の意味を理解して下さるよう、切に期待する次第である。

以上

調査会 NEWS 471](19.2.15-2)

本日の記者会見での発表のうち、加藤博・北朝鮮難民救援基金事務局長同席で発表したタイにおける脱北者実態調査と米国で活躍する歌手・アミーカさんのライブについてお知らせします。以下はどちらも本日発表した文章をそのままお伝えするものです。

タイにおける脱北者の調査

泰国に流入する北朝鮮難民に関する実態調査について

北朝鮮難民救援基金と国際人権ボランティアは、最近タイ国に流入する北朝鮮難民の数が著しく増加しているものの、その実態については、さほどあきらかになっていない、と考えている。

また、タイ国政府、入国監理行政担当者も北朝鮮の人権状況についても理解、認識が一致しているとはいえないように思える。タイの英字紙をみると、安全保障上の問題を提起したり、ブローカーが人道、人権NGOを語り、北朝鮮難民を人身売買しているのではないかという疑念を表明している記事もある。そうした根拠を含め以下の項目について調査団は、タイに流入する北朝鮮難民の実態を調査する。

- 1) どのくらいの数の北朝鮮難民がタイに流入しているのか
- 2) これまで何処の国に何人が受け入れられたのか
- 3) 何処に行くことを希望しているか
- 4) 北朝鮮を脱出した理由、北朝鮮に戻る意思の有無
- 5) 北朝鮮を脱出してタイに来るまでの期間、費用、援助者の有無
- 6) 何処を定住地に希望するか、その理由
- 7) タイ国領内に到着してからの定住地への出国までプロセス

この調査の中での戦略目標

- 1 日本人配偶者の情報収集（帰還運動で北朝鮮に渡った）
- 2 日本人、韓国人およびその他の国籍の拉致被害者に関する情報収集
- 3 日本への定住希望者の有無の調査

調査団の構成

- 1 北朝鮮難民救援基金
- 2 北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会
- 3 特定失踪者問題調査会
- 4 Helping Hands Korea
- 5 人道支援家
- 6 その他

調査の期間 2007年2月25日 3月1日

調査対象 北朝鮮難民、保護者、タイ入国管理局長、地方警察署長、

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）タイ国人権弁護士

その他 記者会見 3月1日、調査結果についてのまとめをバンコクで行う

ライブ・コンサート
報道各位

2007.2.15

在米日本人歌手アミーカさんによる拉致問題の解決を訴えるライブ・コンサートのご案内

特定失踪者問題調査会

在米日本人歌手のアミーカさんが3月に帰国し、日本各地でライブ・コンサートを行います。アミーカさんは、昨年ワシントン・ホワイトハウス前での拉致問題を訴える街頭コンサートを企画し、出演された方です。この度、帰国された際に、音楽を通じて拉致問題の解決を訴えるために、拉致問題に取り組む関係者の方々を対象としたプレゼンテーション・ライブを行う予定です。

報道関係各位におかれましては、取材等でのご協力をよろしくお願い申し上げます。

日時 3月12日 月曜日 午後7時より 2時間程度

場所 ライブ・スポット テラ 03-3395-7611

JR 西荻窪駅 徒歩2、3分

詳細 <http://www.wood-corp.com/tera/>

内容 アミーカさんのピアノ弾き語りによるライブ・コンサート

しおかぜの収録

アミーカさん H.P. <http://www.giocites.jp/amicany>

入場料 無料

ただし、ワンドリンク (2000円程度) の注文をお願いします。

報道関係の方は無料

参加対象 拉致問題に関係するご家族、支援者 20名程度

尚、一般参加も可能ですが、会場は30人程度が定員なので、参加希望される方は、下記、吉田までご連絡下さいますようお願い致します。

報道関係者案内窓口 勝呂 090-4426-7788

拉致問題関係者窓口 真鍋 090-3596-6836

一般参加者案内窓口 吉田 090-3530-5917

調査会 NEWS 472](19.2.16)

佐々江団長からの報告

荒木和博

本日午前、6者協議に参加した日本代表団の佐々江団長（外務省アジア大洋州局長）からの報告がありました。家族会、救う会の代表とともに調査会から私と真鍋専務理事が参加しました。

内容については報道等もされていますし、救う会のメールニュースにも出ていますので、ここでは印象だけ述べておきます。結論から言えば昨日発表した内容の決断は間違っていないと確信しました。

もっとも、私はこの席で議論をふっかけたわけではありません。この席は基本的に家族会に報告をし、意見を聞く席であり、私たちの立場は政府の報告を特定失踪者の家族に伝えることにあるからです。私は佐々江局長にただ一言、現場でのご苦勞に文句を言うつもりはないが、皆さんとは別の次元での判断については納得できないと伝えました。その上で、配られた文書に「『懸案事項』には、拉致も含まれる」と書いてあるが、北朝鮮は本当にこう認識しているのかと質しました。佐々江局長はそうであると答えましたが、どういう場でどう認識しているのかについては語りませんでした。

ベルリンでの米朝の協議、そして今回の6者協議、金桂冠の顔を見ていれば、北朝鮮が追い詰められてあの合意に至ったのではないことは明らかでしょう。もちろん、北朝鮮の中もがたがたですから、向こうが今後へまをすることは考えられますし、そう追い込んでいかなければなりません。少なくとも今回の合意、そしてそれに日本が加わったことは失敗であるとの認識だけは持つべきだと思います。その上で次の対応を考えないと、とんでもない過ちを犯すことになるでしょう。戦略の過ちは戦術で補うことはできません。

どのみち6者協議というのは、北朝鮮を追い詰めるための環境作りの意味しかありません。米国も中国も核保有国であり、北朝鮮の核は痛くも痒くもない、他国に渡るのが怖いだけです。それさえできない約束があれば、面倒なことをするより核を認め、金正日体制を認めてしまった方がはるかに楽です。

6者で外堀を埋めておいて、日本の手で金正日体制を一気に攻め落とす（別に武力は使わないにしても）やり方でいかなければ、核も拉致も解決しません。そして、それは官僚のやる範囲ではなく、政治の決断が何より必要です。総理にはその点をあらためて理解していただきたいと思います。

調査会 NEWS 473](19.2.21)

PP & M もいいけれど

荒木和博

昨日は家族会の皆さんが首相官邸で安倍総理と面会しました。このところ、政府からの報告などのときには特定失踪者の家族に伝えるということで、調査会からも参加していたのですが、今回は一切お声がかかりませんでした。「しおかぜ」支援返上の効果(?)なのかも知れません。

それはさておき、報道によれば官邸で家族会の人たちは総理と面会した後に PP & M のポールさんの歌を総理や中山補佐官、6 者協議に参加した佐々江外務省アジア大洋州局長らと聞いたそうです。こんなことに水を差しても仕方ないかも知れませんが、私には何かずれているように思えてなりません。

6 者協議の合意は、北朝鮮の体制を保障し、援助を与えることを決めた以外、今の時点で何も現実には前進していません。もし、これが「前進」だと言おうとするなら、北朝鮮に約束を守らせる(それがどれほど大変なことかは歴史が証明しています)ための他国との連携にせよ、日本国内での対応にせよ、よほど気合いを入れてやらないといけなはずで、いやみな言い方ですが、「官邸でそんな悠長なことをしている余裕があるのか」と言いたくなります。

米国は大統領が電話をかけてきたり、副大統領が来日したりで(まさかポールさんまで米国政府のさしがねということはないでしょうが)、「拉致問題をやります」と盛んに言っています。それはありがたいことなのですが、いずれにしてもこの問題の解決のためには周辺国の協力はあくまで二次的なもので、日本の行動が何よりも大事です。いつの間にか「拉致問題の解決なくしては」が「進展なくしては」に変わってしまっていますが、あの体制が続く以上拉致問題の完全解決はありえず、核の脅威も去りません。そういう意味では「オール・オア・ナッシング」にも近い状況であり、日本政府はその「オール」を、米国の腰が引けようと、中国や韓国が妨害しようと目指さなければなりません。

これは前政権時代のことですが、5 人が帰国した後、「5 人の家族の帰国最優先」という方針を政府は立てました。家族会の帰国していない人の家族も、特定失踪者の家族も、私たちも、一般の方々も、「ともかく家族が帰ってくれば 5 人はそれ以外の人のことを話してくれるだろう」と思ってその方針に納得しました。そしてその期待は裏切られました。家族が帰ってきた後、5 人はさらに語らなくなりました。私は今でも、ひどい言い方かも知れませんが、まだ帰国していない拉致被害者(政府認定者以外の人も含め)を優先するか、せめて並行して行うという方針にするよう求め続けるべきだったと悔いています。この間の口スは 1 年半に及びました。

25 日には総理が新潟に赴いて帰国した 5 人と会うそうです。まさか「週刊現代」や「諸

君！」の論文の件で蓮池薫氏から「荒木を黙らせてくれ」と言われることはないでしょうが、折角合うのですから、総理から「皆さんの身辺は絶対に保障するから、マスコミに対しても、一般の国民に対しても北朝鮮や拉致問題の真実を語ってほしい」と説得してもらいたいものです。

逮捕状

荒木和博

一昨日くらいから蓮池さん拉致に関わった北朝鮮工作機関の指導員2人のニュースが流れています。逮捕状をとり、写真や似顔絵を公開したということです。逮捕も近いのか、と考えると2人は北朝鮮にいるのですから、結局は発表して終わりということなのではないかと、皮肉の一つも言いたくなります。

素朴な疑問なのですが、この2人の写真や似顔絵はどこから出てきたのでしょうか。現在70～80ということですから、顔立ちから見て事件の頃に撮影された写真だと思います。1970年代の貿易代表団として日本に出入りしていたころのものだとすると、当時からマークされていたことは明らかで、一度に何百人もやってきていたわけでもない北朝鮮の人間を警察が追うのは、現場の方々の努力は大変だったでしょうが、組織の能力からすれば十分にできたはずで。

報道ではこの2人、他の人間の拉致も関与した可能性があるとのこと。そんなにやっていたなら当時何で分からなかったのでしょうか。富山県警の某幹部は「高岡の未遂事件（昭和53年8月）が北朝鮮による拉致未遂と分かったのは大韓航空機爆破事件（昭和62年11月）の後だ」と語ったそうです。そんなはずはないのですが、いずれにしても事件当時警察がどこまで分かっている、どこから分かっていたのか、明らかにする必要はあると思います。

それともう一つ、この2人がやってきて蓮池夫妻の拉致に関与し、その後の監視や教育まで担当したとなると、当然蓮池夫妻のどちらかがある目的に従って調査した上ねらいをつけて拉致したということになるはずで。去年の「女性を狙ったら男がついてきた」と言った報道とは矛盾します。もちろん、海岸にいたアベックを手当たり次第に連れてきたということでもないでしょう。

少しでも「進展」するのは良いことですが、拉致問題についてはこれまでの警察の対応に過ちがあったことは当然です。もちろん、当時の国内の状況は警察の責任だけに押しつけられるものではなく、それ以前に政治の責任があることは間違いないのですが、いずれにしても、どこに問題があったのか、今何が足りないのかは一刻も早く国民の前に明らかにすべきではないでしょうか。責任に関わる部分だけを抜いて情報を出しても全体像は見えません。

もちろん、それができなかったとしても警察が平壤に踏み込んでこの2人を逮捕してきて自白させればいいのですが。

『週刊現代』2月17日号に私が寄稿した「政府への公開質問状」に対して去る22日、河内隆・拉致問題対策本部事務局総合調整室長下記の回答が寄せられました。

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博殿

平素より拉致問題の解決に向けた政府の取組みに対してご協力をいただいていることにつき、厚く御礼申し上げます。さて、これまで貴代表が、一部報道等を通じ、「帰国拉致被害者はすべてを話していない」、「表に出て発言すべき」、「政府は情報を隠蔽している」等の見解を示されていることに関しては、次のとおり考えております。

- 1、政府は、これまで、拉致問題の解決に向けた取組みにおいて、帰国した拉致被害者の方々より情報提供等について御協力をいただいております。政府としては、これまでの帰国被害者の方々の御協力を多としており、今後とも引き続き御協力いただきたいと考えています。
- 2、帰国被害者の方々から提供いただいた情報については、これまで、北朝鮮との交渉や当局による捜査・調査等において重要な参考情報として活用して参りました。そのうち、安否不明被害者に関する情報については、帰国被害者の方々よりそれぞれ関係する御家族に対し、個別に直接お話しされていると承知しております。政府としては、拉致問題の進展を図る上で帰国被害者からの情報を最も効果的な形で活用することが重要であると考えており、帰国被害者の方々から提供いただいた情報をすべて公表することは、拉致問題の解決に取り組む上で適切ではないと考えています。
- 3、政府としては、我が国国民が北朝鮮当局によって拉致された上、数十年もの長きにわたり帰国を果たせなかった、或いは、未だに帰国を果たしていないという事実を厳粛に受けとめており、全ての拉致被害者の一刻も早い帰国を実現すべく、引き続き全力で取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、政府は、「拉致問題における今後の対応方針」においても掲げておりますように、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案についての捜査・調査等を引き続き全力で推進しているところであり、今後とも拉致問題の解決に向けて格段のご協力をお願い申し上げます。

平成 19 年 2 月 22 日

内閣官房拉致問題対策本部事務局
総合調整室長 河内隆

河内室長にはお忙しい中誠実な回答をしていただいたことに感謝いたします。ただ、「しおかぜ」支援返上でも同様ですが、私たちは対策本部事務局の対応に特別の不満を持っているわけではありません。かえって、今回の返上では急な方針転換で、予算折衝等で苦労してくださった方々にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳なく思っている次第です。

私が指摘しているのは事務レベルの話ではなく、政治レベルの問題です。この質問状についても、本来それを国民に対して答えるべき立場の人が答えていない（ある意味では数十年にわたり）ことを問題にしているのであり、それについては今後も追及していくつもりです。

調査会 NEWS 476](19.2.28)

バンコクでの記者会見

現在北朝鮮難民救援基金などの各国N G O、個人がタイに流入する北朝鮮難民の調査を行っており、調査会からも真鍋専務理事が参加しています。今回の合同調査終了にあたり下記の日程で記者会見を行いますので関係各位の対応をお願い申し上げます。

日時 3月1日(木)現地時間 14:00(日本時間 16:00)から

場所 アンバサダーホテル(バンコク) スクインビット ソイ

詳しくは真鍋の現地携帯にお問い合わせ下さい(タイの国番号 66、その後 81-250-0254)